

新しい「ミサの式次第」を学ぶ (23.2.15)

第二バチカン公会議の「典礼刷新」に根ざした式文の変更

* 『典礼憲章』によって刷新されたミサ

(1) 復活秘義がミサで現在化される (47 項)。

(2) 「共にささげるミサ」における信徒の積極的参加の促進「この秘義をよく理解し、聖なる行為に、意識的に、敬虔に、また行動的に参加し、神のことばによって教えられ、主のからだの食卓において養われ、神に感謝をささげ、ただ司祭の手を通してだけでなく、信徒も司祭とともに清い供え者を奉獻して、自分自身を奉獻することを学ぶ (48 項)。」

(3) 「ことばの典礼」の重要性の再確認。

(4) 典礼聖歌、聖書朗読、パンとぶどう酒の奉納、「共同祈願」での信徒の役割の確認とそのための養成の必要性。

開祭：その他でも繰り返される「主はみなさんと共に」という司祭の呼び掛けは、神の恵みの主導権を示している。「主」は、復活の主キリストを指し、一言で信仰宣言となる大切な言葉である。

会衆は、「またあなたとともに」と変更になったのは、共に集まった教会の神秘つまり神が共にいおられることを確認するため。

ことばの典礼：第一 (第二) 朗読の後に、朗読者が「神のみことば」と宣言し、会衆は「神に感謝」と応答し、一同は沈黙のうちに神のことばを味わう。

福音の朗読：司祭 (助祭) は、「主はみなさんと共に」、会衆は、「またあなたと共に」と答える。

司祭は言う。○○○による福音。そのとき、司祭 (助祭) は、朗読福音書、額、口、胸に十字のしるしをする。会衆ははっきりと唱える。「主に栄光。」

この仕草の聖書的背景として「『みことばはあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある (申命記 30:14)。』これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。口でイエスは主であると公^{おおやけ}に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公^{おおやけ}に言い表して救われるからです。

(ローマ 10:8-10)。」

福音朗読が終わると、司祭は、朗読福音書を両手で掲げてはつきりと唱える。

「主のみことば。」

一同は答える。

「キリストに賛美。」

信仰宣言の中では、受肉に言及する箇所「主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ」まで、「一同は礼をする」となり、聖書の言葉が、この所作によって「からだ」をもって表現する典礼の言葉となる。

感謝の典礼：奉納祈願の前の司祭の招きの言葉：「皆さん、ともにささげるこのいけにえを、全能の父である神が受け入れてくださるように祈りましょう。」と、招く。

唯一のキリストの奉獻に、司祭と会衆がそれぞれの仕方で共に参加する。会衆は立って答える。

「神の栄光と賛美のため、

またわたしたちと全教会のために、

あなたの手を通しておささげするいけにえを、

神が受け入れてくださいますように。」

一同はその後、しばらく沈黙のうちに祈る。

これも、唯一のキリストのささげ（奉獻）に司祭と会衆が共にそれぞれの立場で行動的に参加するという信仰の表明となっている。

奉獻文（エウカリスティアの祈り）

司祭 主はみなさんと共に。

会衆 またあなたとともに。

司祭 心をこめて、

会衆 神を仰ぎ、

司祭 賛美と感謝をささげましょう。

会衆 それはとうとい大切な務めです。

ここでも、神の民の挨拶の伝統を受け継ぐ「みなさん」と「あなた」の呼応の挨拶によって、神が共におられること、主が共におられることを確認する。

感謝の賛歌（サンクトゥス）

一同 聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。
天の栄光は天地に満つ。
天には神にホザンナ。
主の名によって来られるかたに賛美。
天には神にホザンナ。

奉献文

司祭 信仰の神秘

会衆 主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。
再び来られるときまで。

交わりの儀

会衆 国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。

平和のあいさつ

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに、
会衆 またあなたとともに。

平和の賛歌（アニュス・デイ）

会衆 世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く神の小羊、平和をわたしたちに。

拝領前の信仰告白

司祭 世の罪を取り除く神の小羊。
神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。
一同 主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。
おことばをいただくだけで救われます。

閉祭

派遣の祝福

司祭 主は、皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

最後に、また、「皆さん」と「あなた」の呼応のあいさつで主が共におられることを確認する。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

閉祭のことば

司祭 感謝の祭儀を終わります。

平和のうちにいきましょう、日々の生活の中で主の栄光をあらわすために。

(感謝の祭儀を終わります。いきましょう。主の福音を告げ知らせるために。)

会衆 神に感謝。